

開発建設部



関係者によるテープカット：左から横森北部ダム事務所長、山里教育長、上原羽地ダム対策委員会最高顧問、末松助役、中村名桜大学教授

「羽地ダム資料館」開館

平成十六年五月三日(月)羽地ダムの完成を間近に控え、一足早く羽地ダム管理棟内に完成した「羽地ダム資料館」を、羽地大川鯉のぼり祭りに合わせて開館しました。

オープニングセレモニーには、名護市助役、教育長、地元関係者並びに羽地の五小中学校長、児童をお招きし、桜の女王ミスさくらが華を添えました。

「羽地ダム資料館」開館

地域の情報発信拠点

羽地ダム資料館の特徴

当資料館は、羽地の風土特性を踏まえ、木・火・土・金・水・もつ・か・ど(こん・すい)を展示テーマに掲げ、整備を進めてきました。

「木はヤンバルの自然」「火は羽地の歴史」「土は羽地の生活・文化」「金は羽地ダムの技術」「水は沖縄の水文化」ととらえてビデオ映写、ジオラマ、模型、グラフィック等で紹介し、それらの展示内容に関わる関連図書が閲覧できる総合ライブラリーのコーナーも設置しています。



ヤンバルの自然コーナー



「火」のコーナーでは羽地大川の治水の始まりである一七三五年、琉球王朝時代の三司官であった蔡温が、改修工事の陣頭指揮をとり、延べ十万人を動員してわずか三ヶ月間の短期間で完成させた有名な話を紹介するなど、地域の歴史・文化・伝統等の風土資産を発掘し、積極的に紹介して、地域の情報発信拠点と成り得るよう地元関係者の協力を得て整備されたところが特徴となっています。

ゴールデンウィーク期間中の三日～五日には梅雨入りしたにも関わらず、北部地域はもとより中南部からも連日多くの方が訪れ、約千三



羽地ダムの技術コーナー

百人の入館者がありました。また、この三日間で行ったアンケート調査では、ダムのことや自然のことがわかりやすく子供達の学習等に役立つ「小さい子やお年寄りにも利用しやすい」などの意見がありました。

なお、当資料館は、月曜日の休館日を除き、午前九時～午後五時までご利用でき、入館料は無料となっています。

詳しくは北部ダム事務所まで

☎ 0980-52-0531